大阪ヒト元気録

目の前のことにベスト

タイで子供たちを支える団体に寄付も

トマトコーポレーション社長

岡本（おかもと）　誠司（せいじ）さん

ワタリガニ、オイルサーディン、アンチョビなどの高級水産缶詰、さらにタイ風のレトルトカレーの缶詰やフランス・ディジョン産の風味豊かな「粒入りマスタード」の瓶詰などを100円の低価格で提供し、急成長を遂げている食品貿易会社を経営する。1998年の創業から実に3千万個以上の缶詰を消費者に届けてきた。

■「一旗揚げたい」

高校では甲子園を目指し、大学では四番を打つなど青春のほとんどすべての時間を野球に費やし、プロの世界を目指していた。だが「道は険しい。区切りをつけました」とプロへの道を断念した。

大学卒業後は機械工具メーカーに就職し、サラリーマンとして新たな道を歩き始める。しかし、心の中では「自分で何かしたい。一旗揚げたい」という気持ちがマグマのように常にフツフツとわいていたという。そして意を決して約6年半勤めた会社を退職したのが92年11月。その後は皿洗いなどの職を転々とした。「20社以上転職しましたね」

■「夢を持つな」

「夢はかなえられない。持っても仕方がない。目の前のものにベストを尽くし、自分に合う道を探したほうがいい。ダメだったらまた方向を変えればいい」。転職を繰り返す中で培った生き方。道を見つけるためには「自分の中で強い志を持ち続けることが重要」とも。

失業中、企業がこぞって中国へ進出しているという新聞記事からヒントを得て、「これからは中国ビジネス」と即座に中国への語学留学を決めた。考えたことはすぐに行動に移す。中国では「人生で一番勉強しました」と、2度倒れながらも2年で中国語を会得した。その語学力を生かして翻訳会社、貿易商社で経験を重ね、独立した。

■「一歩先を読む」

独立して3年。「高いものをどう安くするか」とアイデアを振り絞って「100円カニ缶」を世に送り出した。これが爆発的にヒット。この商品をきっかけに「えっ、これが100円」という商品を作り続けている。「先を読めと言いますが、二歩、三歩、10年先など読む必要はありません。一歩先でいいんです」。この考え方も目の前のことにベストを尽くす生き方につながる。

現在は商談などで、東南アジアやヨーロッパなどを飛び回る。「ここまで来たのは皆さんのおかげです。何か恩返しをしていきたい」と、タイで子供たちを支えているボランティア団体に毎年寄付を続けている。そして「将来は施設を造りたい。みんなハッピーになれるように、微力だが力になりたいです」

「成功するにはいかに失敗するか。一番失敗したものが最後に勝ちます」と言う岡本社長。「若いときに苦労するのも大切」とも

○…「今は人生で野球を続けてます」と岡本さんは言う。「野球を通して忍耐力、協調性を学んだ。今も学んでいる。グローブ、バットは使わなくても野球をしてますよ。まだ現役です」と熱い言葉。「人生で言えば、今は何回ですか?」と聞いてみる。即答。「まだ一回表、試合開始のサイレンが鳴ったところ」。生涯現役。岡本さんにゲームセットのサイレンは、必要ない。（松村一雄）